

NIPPON SANZO HOLDINGS

個人投資家さま向け企業説明会

# 日本酸素ホールディングスグループ 企業概要とサステナビリティについて

2021年11月26日

財務・経理室 IR部長 梅原 崇禎 | サステナビリティ統括室長 兼 CSO 三木 健

The Gas Professionals

# 重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション」とは、本プレゼンテーションにおいて、日本酸素ホールディングス株式会社（以下、「日本酸素HD」）によって説明または配布された本書類、口頭でのプレゼンテーション、質疑応答及び書面または口頭等の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明および質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内もしくは勧誘、または、いかなる投票もしくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明または形成するものではありません。また、これを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより、株式または有価証券の募集を公に行うものではありません。本プレゼンテーションは、投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく、情報提供のみを目的として、受領者に使用されるという条件の下で、受領者に対して提供される追加情報とともに提供されております。この制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券関連法規の違反となる可能性がございます。日本酸素HDが直接的に、または間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「日本酸素HD」という用語は、日本酸素HDおよびそのグループ会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。また、同様に「当社、当社グループ」という用語は、子会社全般またはそこで勤務するものを参照していることもありえます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることがあります。

## ・将来に関する見通し情報

本プレゼンテーションおよび本プレゼンテーションに関して配布された資料には、日本酸素HDの理念または見解、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジションおよび業績に関する将来見通し情報、見積もり、予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする」「計画する」「信じる」「望む」「継続する」「期待する」「めざす」「意図する」「確実にする」「だろう」「かもしれない」「すべきである」「であろう」「することができた」「予想される」「見込む」「予想する」などの意思や推量をあらわす用語もしくは同様の表現またはそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られません。これらの将来見通しに関する情報は、多くの重要な要因に関する前提や想定に基づいており、実績としてあらわれる業績では、将来見通し情報を通じて明示または暗示された将来の業績とは異なる可能性があります。その重要な要因には、国内外の一般的な経済条件を含む、当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の開発・出現、関連法規の変更、規制当局による判断とその時期、金利及び為替の変動、販売された製品または試験・候補製品の安全性または有効性に関するクレームまたは懸念等、新型コロナウイルス感染症のような健康危機が当社の事業を行う国・地域の政府を含む当社とその顧客および供給業者に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（Post Merger Integration:買収後統合）の時期及び影響、日本酸素HDの事業資産を売却する能力およびかかる資産売却のタイミング、当社のWebサイトにおいて閲覧可能な日本国の有価証券報告書関連法規に沿って提出された最新の年次有価証券報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。日本酸素HDは、関連法規や証券取引所の関連規制により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる情報または当社が提示するあらゆる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は、将来の経営結果の指針とはなりません。本プレゼンテーションにおける日本酸素HDの経営成績は、日本酸素HDの将来の経営成績またはその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証または見積もりではないことにご留意ください。

## ・国際会計基準（IFRS）に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、コア営業利益、EPS（1株あたりの当期利益）、有利子負債、純有利子負債、調整後ネットD/Eレシオ、フリー・キャッシュ・フローのように、IFRSに準拠しない財務指標（以下、「当社独自指標」）が含まれています。当社役員及び執行役員は、業績評価ならびに経営および投資判断をIFRSおよびIFRS以外の指標に基づき実施しています。当社独自指標においては、最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、または異なる数値となる一定の利益、費用およびキャッシュ・フロー項目を除外しております。当社独自指標を提供することで、当社役員及び執行役員は、投資家の皆さまに対して、当社の経営状況、主要な業績および動向のさらなる分析のための付加的な情報を提供したいと考えており、当社独自指標は、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆さまにおかれましては、当社独自指標について、これらによく対応するIFRSに準拠した財務指標との照合を行っていただきますように、お願い申し上げます。

## ・財務情報

当社の財務情報は、国際会計基準（IFRS）に基づき作成しております。

# 本日の内容

1. 日本酸素ホールディングスについて
2. サステナビリティピックアップ
3. 株主還元



# 1. 日本酸素ホールディングスについて

# 会社概要

商号	日本酸素ホールディングス株式会社
証券コード	東京証券取引所 市場第一部 <b>4091</b>
創業年月日	明治43年(1910年) 10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
連結売上収益	8,182億円 (2021年3月期 IFRS基準)
連結営業利益	888億円 (同上)
連結従業員数 (2021年3月31日現在)	19,357名 (国内 6,599名、海外 12,758名)
主要株主の状況 (2021年3月31日現在)	株式会社三菱ケミカルホールディングス 50.59% 出資比率は、自己株式を控除した発行済株式総数より算出しています。



代表取締役社長 CEO

はまだ としひこ  
濱田 敏彦

時価総額 (2021年11月2日現在)	11,407 億円
株価(終値) (2021年11月2日現在)	2,634 円 単元株式：100株
PBR(株価純資産倍率)	2.22 倍 1株当たり親会社所有者帰属持分(2021年3月期実績)と上記表示の株価より算出
PER(株価収益率)	19.59 倍 基本的1株当たり当期利益(2022年3月期予想)と上記表示の株価より算出

# The Gas Professionals

## グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

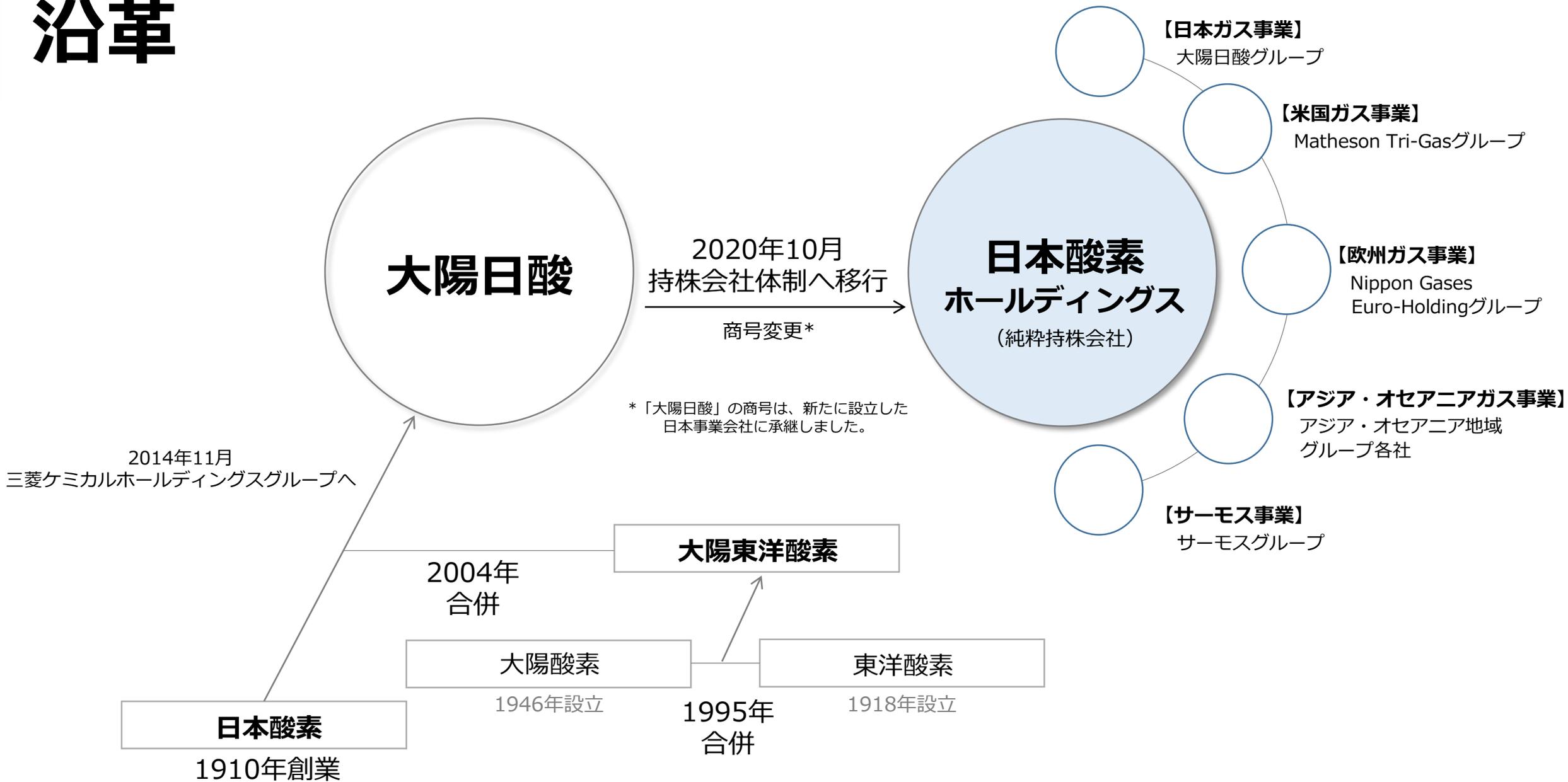
Proactive. Innovative. Collaborative.  
Making life better through gas technology

## グループビジョン

私たちは、革新的なガスソリューションにより  
社会に新たな価値を提供し、  
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、  
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas solutions that increase industrial productivity, enhance human well-being and contribute to a more sustainable future.

# 沿革



# 主要な事業

## 産業ガス事業



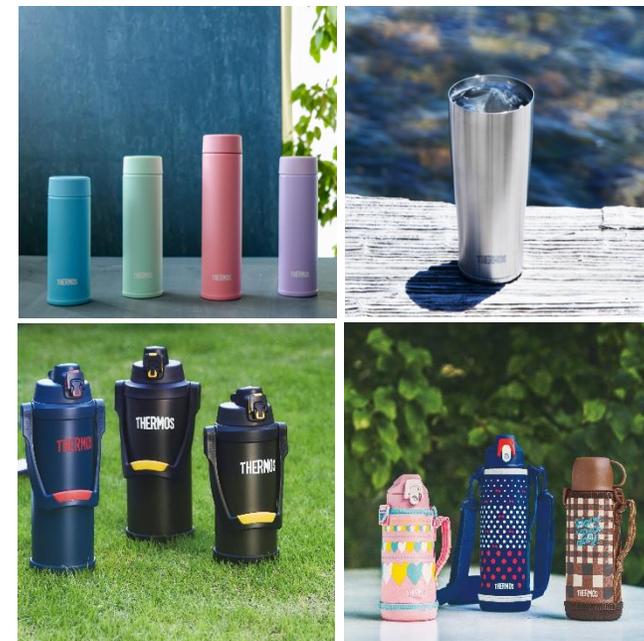
- 主な製品
- 酸素 Oxygen
  - 窒素 Nitrogen
  - アルゴン Argon
  - 水素、一酸化炭素、合成ガス  
Hydrogen, CO and syngas
  - 炭酸ガス Carbon dioxide
  - ヘリウム Helium
  - 上記に関連する機器・工事

## エレクトロニクス事業



- 主な製品
- アルシン  $AsH_3$
  - ジボラン  $B_2H_6$
  - モノフルオロメタン  $CH_3F$
  - 塩化水素 HCL
  - ホスフィン  $PH_3$
  - シラン  $SiH_4$
  - 上記に関連する機器・工事

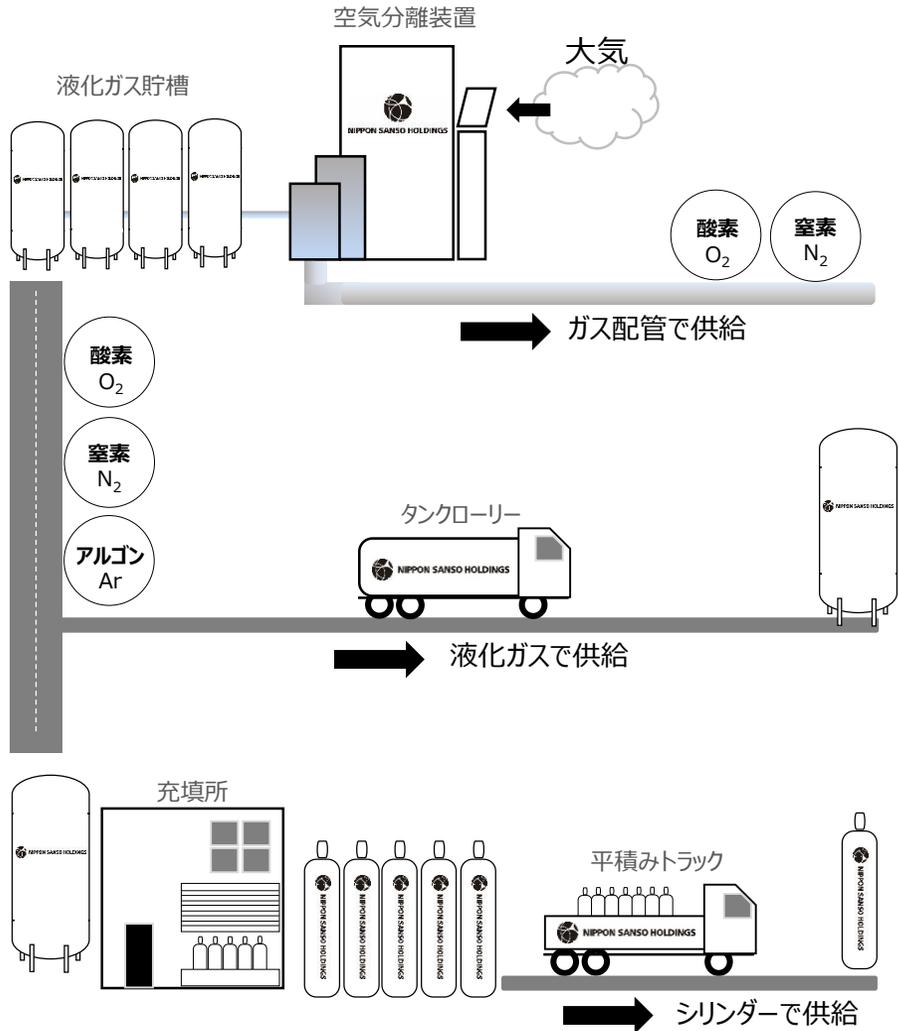
## サーモス事業



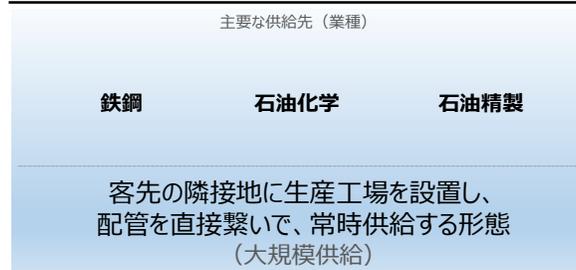
- 主な製品
- スポーツボトル
  - ケータイマグ
  - タンブラー
  - フライパン
  - お鍋
  - ランチジャー

# 産業ガスの供給モデル

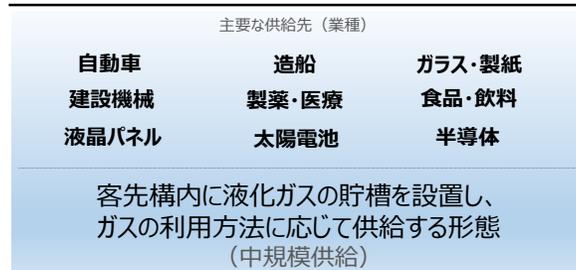
## エアセパレートガス



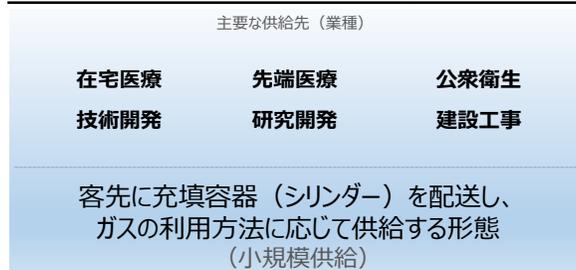
## オンサイト On-site



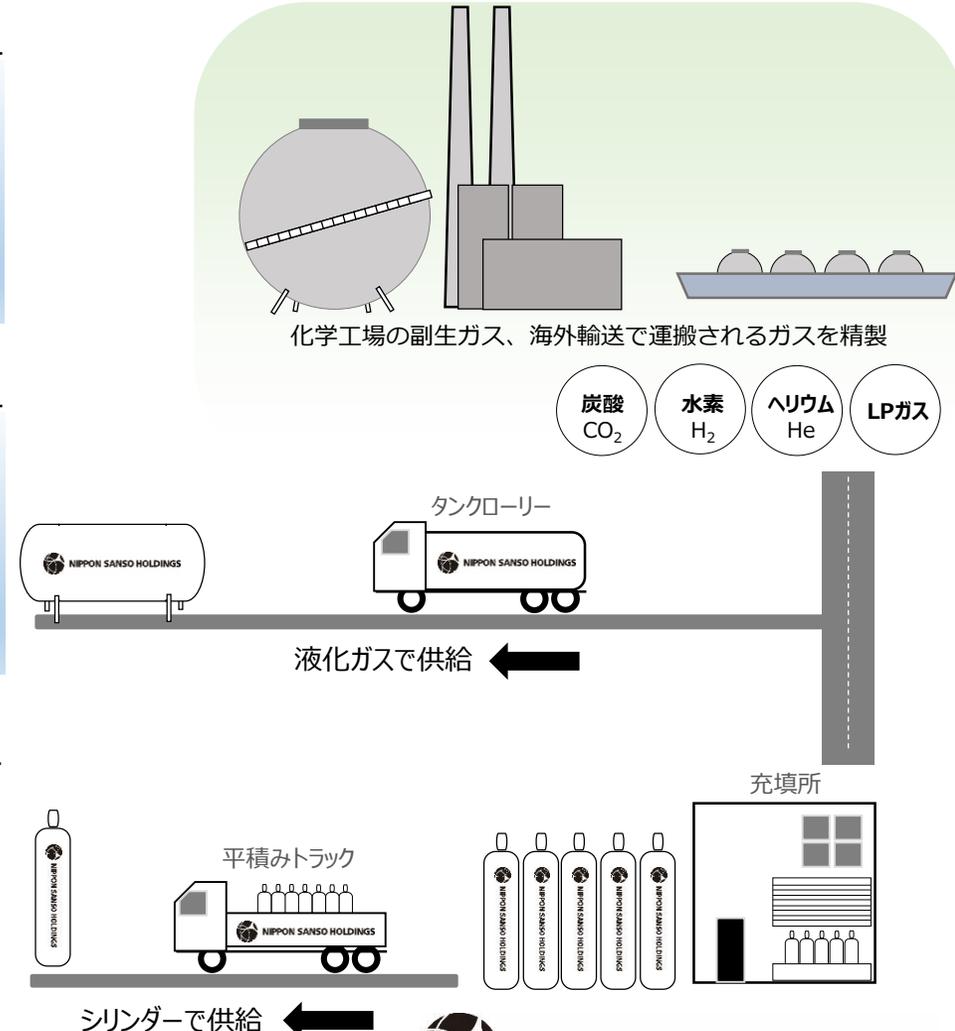
## バルク Bulk



## パッケージ Packaged



## その他のガス



# 産業ガスの貢献分野

鉄鋼、化学、エレクトロニクス、輸送機器・機械、食品、生命科学・医療、エネルギー等のあらゆる産業に様々なガスの供給を通じて、日本の産業界の発展を支えてきました。また、産業の発展とともに業界・用途が広がっています。

1910年代～



供給先の主な業界  
鉄道、陸海空軍

供給する主なガス  
酸素、アセチレン

代表的な用途  
金属切断・溶接



1950年代～



供給先の主な業界  
製鉄・造船

供給する主なガス  
酸素

代表的な用途  
高炉への吹込み



1960年代～



供給先の主な業界  
石油化学

供給する主なガス  
窒素

代表的な用途  
保安用



1970年代～



供給先の主な業界  
半導体・自動車

供給する主なガス  
窒素、アルゴン

代表的な用途  
酸化防止



1980年代～



供給先の主な業界  
医療・食品

供給する主なガス  
酸素、窒素

代表的な用途  
病院・封入

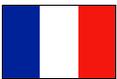


# 産業ガス市場シェア

ガスジオラマ及びウェルディングMARTに掲載されている産業ガスマーケットシェアをもとにして当社で推定

## グローバル

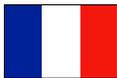
市場規模(2016年) : 856億米ドル

1位		リンデ Linde plc*	推定シェア 35%~
2位		エア・リキード Air Liquide S.A.	25%~
3位		エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズ Air Products and Chemicals, Inc.	9%~
4位		日本酸素ホールディングス Nippon Sanso Holdings Corporation	7%~
5位		メッサーグループ Messer Group GmbH	2%前後

\*Linde plcは、2018年10月に 独Linde AGと米Praxair Inc. が統合して発足

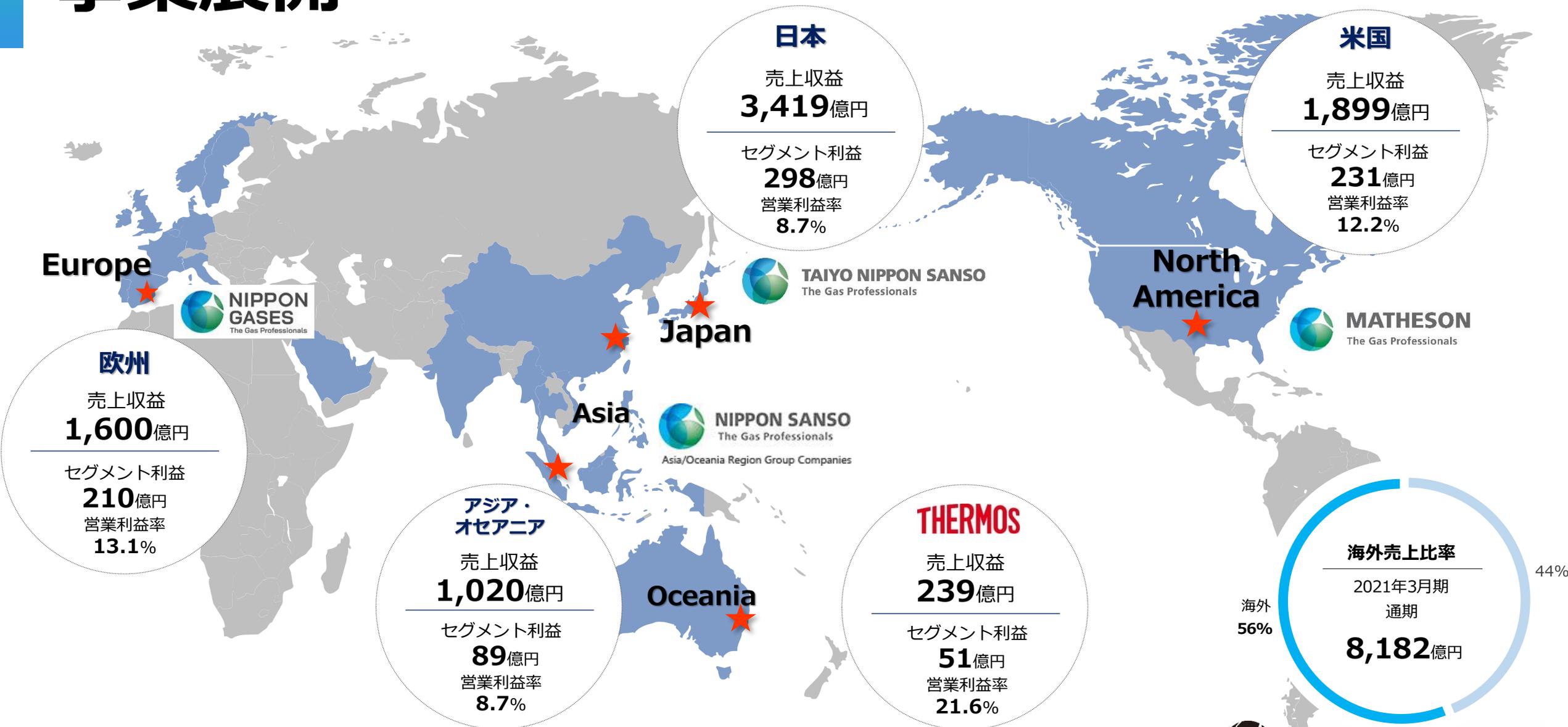
## 日本

販売市場規模(2018年3月期) : 5,700億円

1位		大陽日酸株式会社 (日本事業会社) (日本酸素ホールディングスグループ)	推定シェア 40%
2位		エア・ウォーター株式会社	22%
3位		日本エア・リキード合同会社 (Air Liquide Japan G.K.)	15%
4位		岩谷産業株式会社	14%

# 事業展開

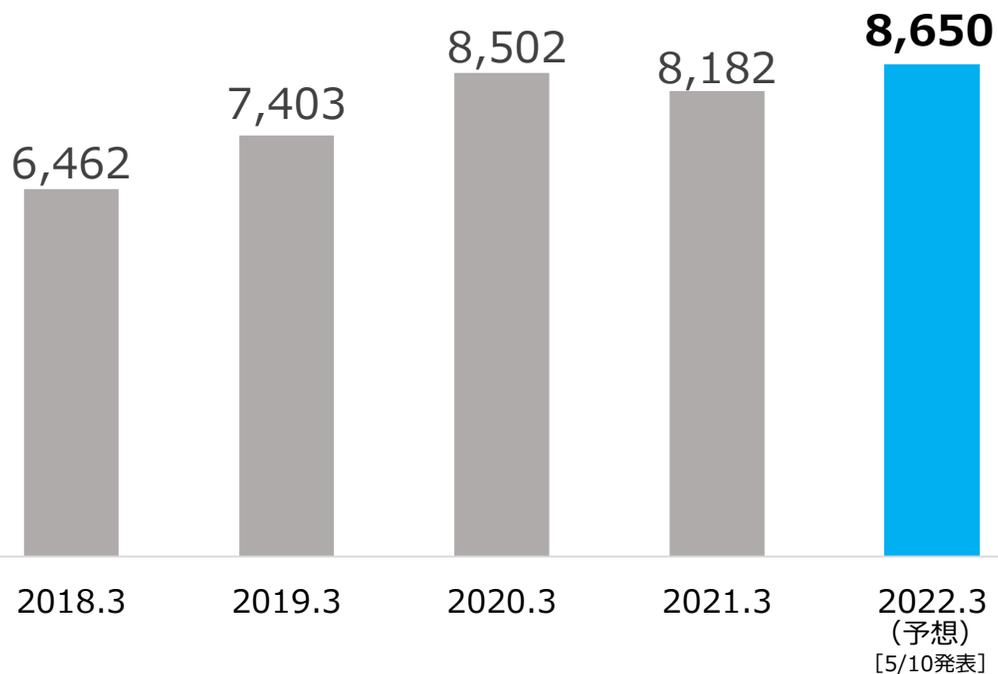
2022年3月期でセグメント区分の内訳組替えを実施したため、2021年3月期は新たなセグメント区分に基づき表示しています。



# 業績推移

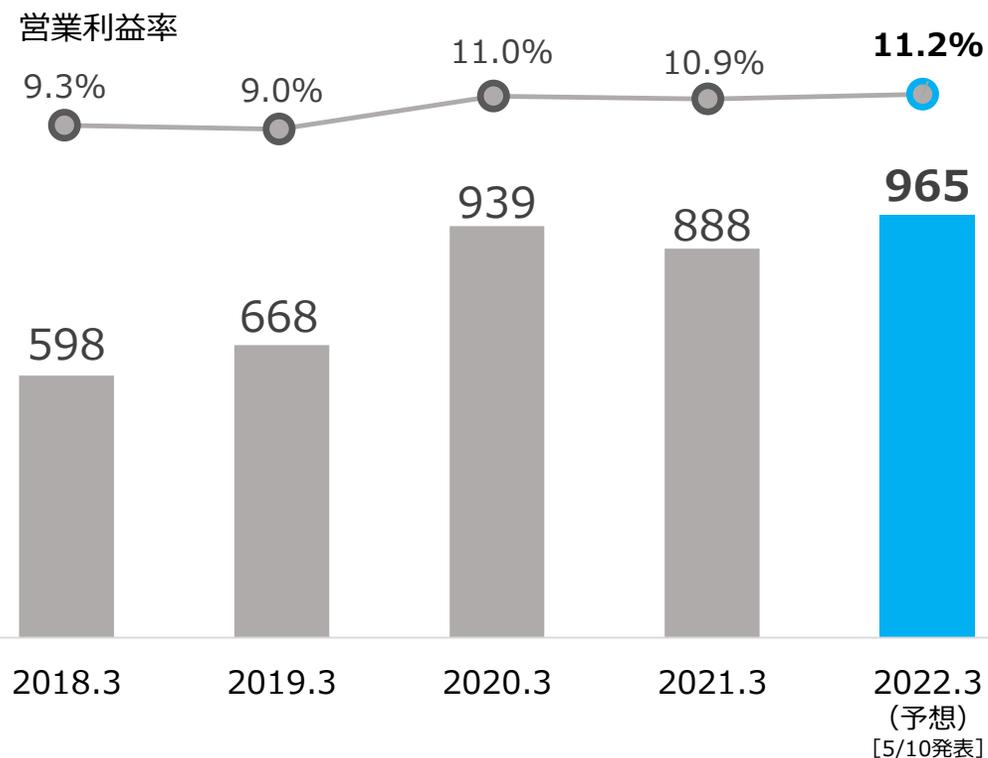
## 売上収益

(億円)



## 営業利益 (IFRS)

(億円)



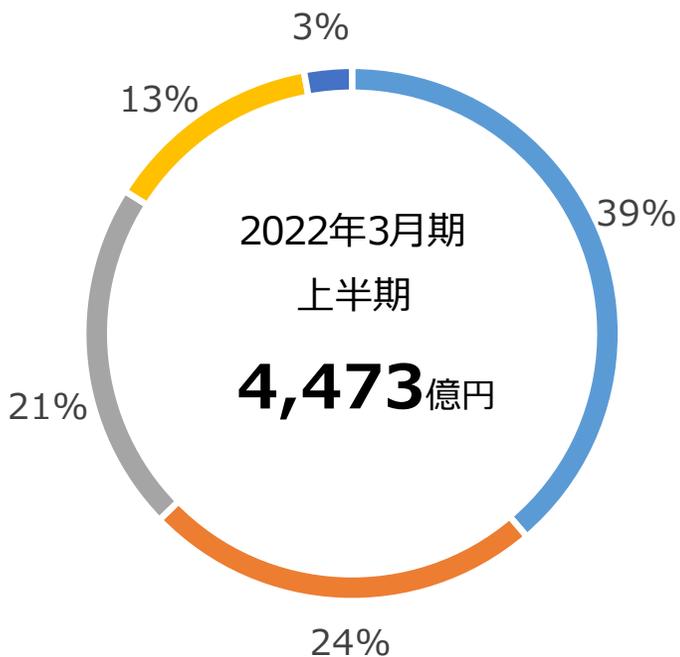
# 連結決算要約 (第2四半期累計)

	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比		2022年3月期
	上半期	上半期	増減額	増減率	通期予想
(単位：億円)	(4-9月期)	(4-9月期)			(5月10日発表)
売上収益	3,845	4,473	+628	+16.4%	8,650
コア営業利益	367	498	+131	+35.7%	960
コア営業利益率	9.6%	11.1%			11.1%
非経常項目	-0	-0	+0		5
営業利益 (IFRS)	366	497	+131	+35.8%	965
営業利益率	9.5%	11.1%			11.2%
税引前四半期利益	308	450	+142	+46.1%	860
親会社の所有者に帰属する四半期利益	210	342	+132	+63.3%	582
四半期利益率	5.5%	7.7%			6.7%
1株あたり当期利益 (EPS) (円)	48.53	79.24	+30.71		134.49
為替レート (円)	USD (米ドル)	106.32			105
(期中平均レート)	EUR (ユーロ)	121.66			125

※2022年3月期（上半期）における為替換算による影響額合計：売上収益 +133億円 コア営業利益 +16億円

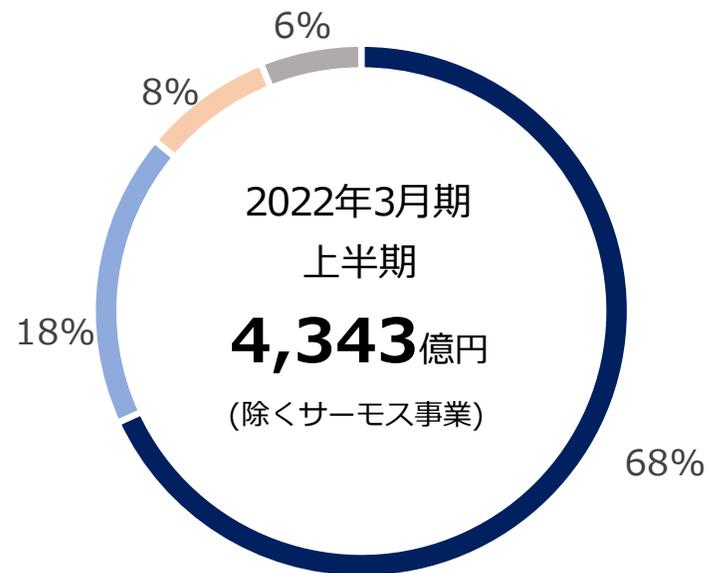
# 売上収益構成 (第2四半期累計)

## セグメント別



■ 日本 ■ 米国 ■ 欧州 ■ アジア・オセアニア ■ サーモス

## 事業別



■ 産業ガス ■ エレクトロニクス ■ メディカル ■ エネルギー

## 2. サステナビリティピックアップス



# サステナビリティ活動方針

## 持続的成長の好循環 新たな社会課題の解決

当社グループが提供する価値  
(グループビジョン)

私たちは、革新的なガスソリューションにより社会に新たな価値を提供し、あらゆる産業の発展に貢献すると共に、人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。



すべての人を尊重し、  
人の成長・健康・  
働きがいに貢献



社会インフラとして機能し、  
あらゆる産業の発展と  
人々の豊かな生活に貢献



持続可能な地球環境の  
保全に貢献

## 製品・サービス・ソリューション

産業ガス事業領域

エレクトロニクス事業領域

サーモス事業領域

# サステナビリティ推進体制



常務執行役員  
サステナビリティ統括室長 兼 CSO\*  
(兼 大陽日酸(株) 常務執行役員 技術統括ユニット長)

**三木 健**

\*CSO: チーフ・サステナビリティ・オフィサー



Matheson Tri-Gas, Inc.  
Executive Vice President,  
Corporate Administration & General Counsel  
スティーブン・ストラウド  
Stephen Stroud



Nippon Gases Euro-Holding S.L.U.  
Director Sustainability and HSEQ Europe  
イナークィ・ユリアテ  
Inaki Uriarte



Nippon Sanso Holdings Singapore Pte. Ltd.  
代表取締役社長  
石原 仁



サーモス(株)  
取締役 品質統括部  
ゼネラルマネジャー 兼 新潟事業所長  
山田 雅司

# カーボンニュートラル社会の実現に向けて

## 私たちに期待されている企業価値

世界的なカーボンニュートラル社会  
に向けた潮流を受けて

2050年  
カーボンニュートラル  
実現に向けた貢献

### 当社グループ 主要論点①

自社の事業活動で  
発生する  
温室効果ガス排出量

消費電力構成の  
グリーン化\*1

生産・物流の  
効率化

\*1 消費電力構成のグリーン化：  
再生可能エネルギーにより発電された電気環境付加価値を、契約の見直しや証書発行事業者が  
第三者認証機関の認証などを得て取引する仕組みを活用する手法

### 当社グループ 主要論点②

顧客の生産活動で  
発生する  
温室効果ガス排出量

燃焼効率の  
さらなる追求

CCUS\*2の  
取組み推進

\*2 CCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage)：二酸化炭素回収・有効利用・貯留

### 当社グループ 主要論点③

次世代エネルギーの  
産業改革

水素等を活用した  
新規事業機会の  
探索・獲得

カーボン  
ニュートラルに  
寄与する技術の  
活用

# 事業を通じた貢献：産業ガス事業（1）食関連

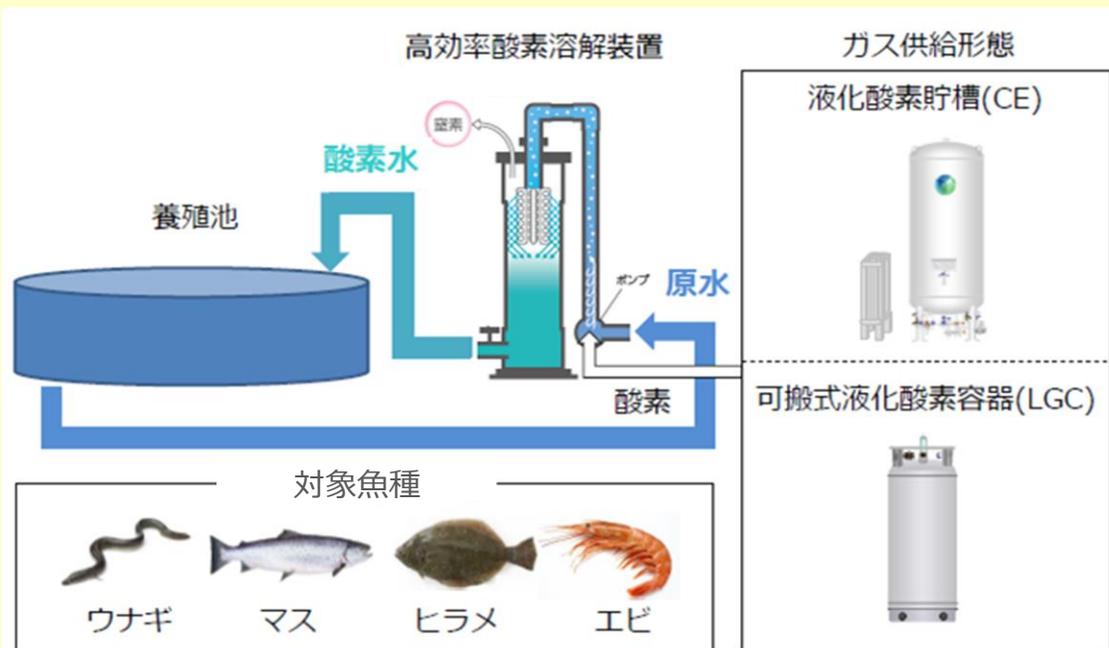


## 養殖業の生産性向上

養殖時に飼育魚を健康でおいしく育てるためには、飼育水の溶存酸素量の管理が重要です。

酸素を効率良く水中に溶解させるためのガスアプリケーション（ガス利用技術）を通じて、理想的な飼育環境づくりを支援しています。

### 陸上養殖システム"高効率酸素溶解装置"



## 食品ロスの低減

食品包装方法のうち、包装内の雰囲気気を空気以外のガスに置換する方法を「ガス包装」「ガス充填包装」あるいは「ガス置換包装」といいます。食品を長持ちさせるためのガスアプリケーションを通じて、食品ロスの低減に貢献しています。



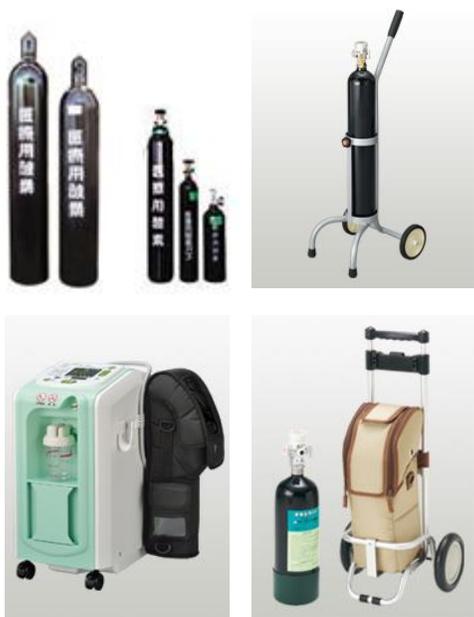
ガスの種類	機能（効用）
窒素ガス	包装内の空気と置換することで酸素を排除できます →食品の酸化防止、風味ぬけ防止 →好気性菌（特にカビ）などの菌の増殖抑制
炭酸ガス	制菌効果があります ■水分、油に溶解しやすい為、一般に窒素で希釈して使用します

# 事業を通じた貢献：産業ガス事業（2）医療関連



医療ガスを中心に、病院設備、バイオ（細胞保存等）関連、安定同位体、在宅医療、医療機器といった事業領域で展開し、人の命と健康を守る医療従事者・患者の皆さまに貢献しています。

## 医療酸素供給



## 人工呼吸器



## ワクチン輸送

ドライアイスで保冷



## 凍結保存容器

液体窒素で細胞を凍結



## 安定同位体

酸素同位体をPET診断やMRI検査等に使用



# 事業を通じた貢献：エレクトロニクス事業

9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう



ユーザーが簡便・安全・安定的にガスをご利用いただけるように、ガス供給に関連する一連の操作を一元的に管理できるようにサポート

## スマートファクトリー\*化への対応 (半導体製造プロセスでは、さまざまな特殊材料ガスを使用)



\* スマートファクトリーとは、一般的に、デジタルデータの活用等で業務プロセスの改革、品質・生産性の向上を継続・発展的に実現する工場を指します。

# 事業を通じた貢献：サーモス事業

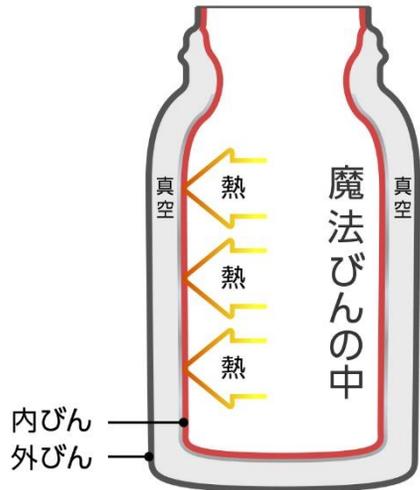


魔法びんは、保温・保冷のために電気やガス、その他のエネルギーを必要としない、環境にやさしい製品です。洗って何度も使えるサーモス製品の普及を通じて、廃プラスチックを減らし、地球環境の保全につなげたいと考えています。

## 熱を逃がさないステンレス製魔法びんの秘密

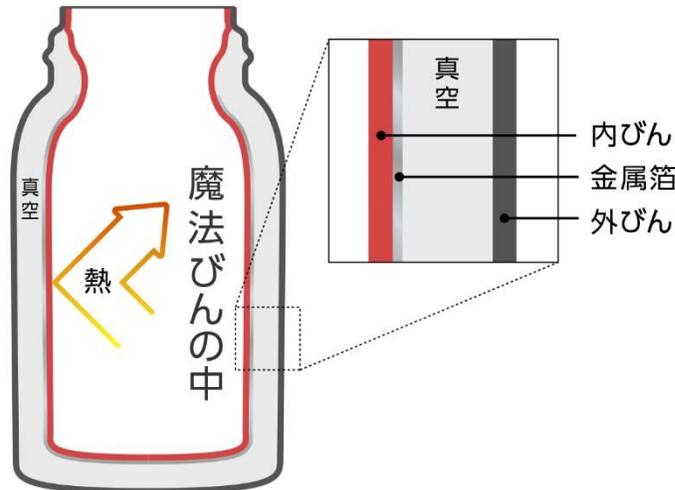
真空断熱構造の携帯用魔法びん、卓上用魔法びん、弁当用ジャー、保温調理器は「エコマーク\*」に認定されています。

### 熱移動による放射の遮断



魔法びんはステンレスの2重構造で、外びんと内びんの間を真空状態にしています。真空は宇宙と同じで、熱を伝える気体分子がほとんどないため熱を伝えません。

### 熱放射による放射の遮断



内びんの外側に金属箔をまきつけることで逃げようとする熱を反射させ、熱放射による放熱を防ぎます。

# THERMOS



\* エコマークとは、(財)日本環境協会エコマーク事務局が認定するマークで、環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる環境ラベルです。

# 各地域での取り組み

革新的なガスソリューションによって新しい価値を創出し、人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざしています。

持続的に、人、社会、そして地球の課題解決に貢献していくことが、社会価値と経済価値を同時に高めるとともに、当社グループの企業価値の向上にもつながっていくと考えています。こうした想いを社員全員が共通認識として理解するグループビジョンに込め、グループ一丸となってサステナビリティ経営を推進しています。

## 日本

当社グループの技術の中核拠点で開発したさまざまなガスアプリケーション技術でお客様の課題を解決

## 米国

グローバルHyCO\* チームを通じて世界的なカーボンニュートラル社会の早期実現への勢いを事業機会へ

## 欧州

北欧（ノルウェー）で進んでいるサーモン養殖業向けに酸素を安定的に供給し漁業発展を支援

## アジア・オセアニア

半導体製造集積地である東アジアで、電子材料ガスをグローバルなサプライチェーンで安定供給

## サーモス

断熱技術と創造力で省エネルギーに貢献しつつ、快適な生活スタイルを提案

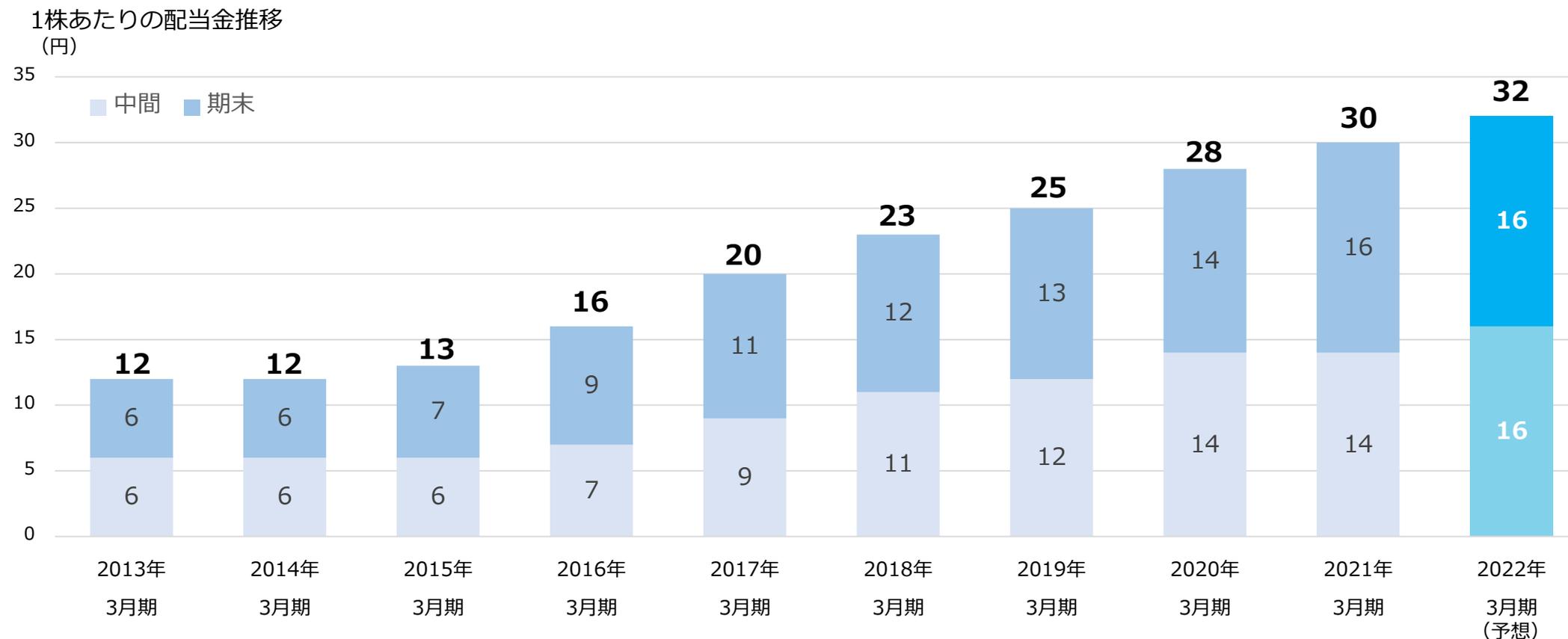
\* HyCO（ハイコ）：天然ガスなどから水蒸気改質装置で分離される水素・一酸化炭素を主に硫黄分除去の工程で使用する石油精製・石油化学産業向けにパイプラインで供給するオンサイト事業

# 3. 株主還元



# 株主還元

安定的な配当を維持しつつ、連結業績との連動を考慮した配当政策を実施します。



# 株価推移

過去5年間の株価推移を2016年10月1日を基準にした増減率で表示しています。



# 統合報告書のご案内

当社では、2017年から、財務・非財務情報を統合的に報告するために、「統合報告書」を発行し、当社のIR（投資家向け）情報サイトで公開しています。

2021年版は、9月30日（木）に電子版としてリリースいたしました。



日本酸素ホールディングス 統合報告書2021（表紙）



# 質疑応答

---

# Appendix

---

会社概要

(2021年3月31日現在)

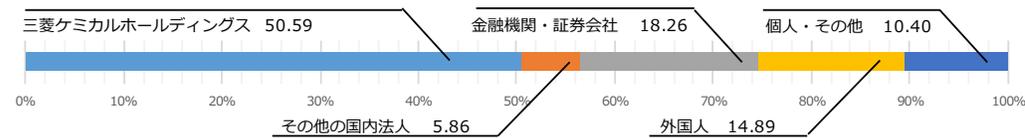
商号 (英文名称)	日本酸素ホールディングス株式会社 Nippon Sanso Holdings Corporation
設立	明治43年(1910年) 10月30日
本社所在地	東京都品川区小山1-3-26
電話番号	03-5788-8500 (代表)
代表者	代表取締役社長 CEO 濱田 敏彦
資本金	373億44百万円

株式情報

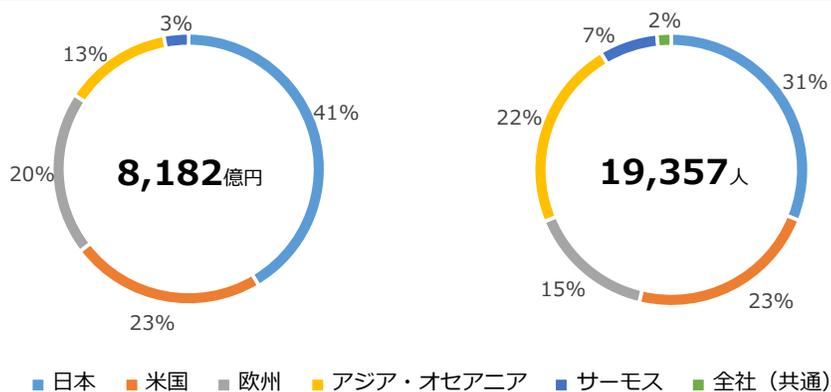
(2021年3月31日現在)

発行済み株式総数	433,092,837 株
株主数	16,205 人
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	4091.T

株式所有者別割合 (%)



セグメント別売上割合および連結従業員数構成比 (2021年3月31日現在)



企業理念

# The Gas Professionals

グループ理念

進取と共創。ガスで未来を拓く。

Proactive. Innovative. Collaborative.

Making life better through gas technology.

グループビジョン

私たちは、革新的なガスソリューションにより  
社会に新たな価値を提供し、  
あらゆる産業の発展に貢献すると共に、  
人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas solutions that increase industrial productivity, enhance human well-being and contribute to a more sustainable future.

主要事業

産業ガス事業



エレクトロニクス事業



サーモス事業



2022年3月期 業績見通し (IFRS)

売上収益	8,650 億円	親会社の所有者に帰属する当期利益	582 億円
営業利益	965 億円	EPS (1株あたり当期利益)	134.49 円

# 連結決算見通し要約

	2021年3月期	2022年3月期	前期比		2022年3月期
	通期	通期予想（維持）	増減額	増減率	通期予想（旧）
(単位：億円)		(11月1日発表)			(5月10日発表)
<b>売上収益</b>	<b>8,182</b>	<b>8,650</b>	<b>+468</b>	<b>+5.7%</b>	<b>8,650</b>
<b>コア営業利益</b>	<b>872</b>	<b>960</b>	<b>+88</b>	<b>+10.0%</b>	<b>960</b>
コア営業利益率	10.7%	11.1%			11.1%
非経常損益	15	5	-10		5
<b>営業利益（IFRS）</b>	<b>888</b>	<b>965</b>	<b>+77</b>	<b>+8.6%</b>	<b>965</b>
営業利益率	10.9%	11.2%			11.2%
税引前利益	777	860	+83	+10.7%	860
<b>親会社の所有者に帰属する当期利益</b>	<b>552</b>	<b>582</b>	<b>+30</b>	<b>+5.4%</b>	<b>582</b>
当期利益率	6.7%	6.7%			6.7%
1株あたり当期純利益（EPS）（円）	127.59	134.49	+6.90		134.49
ROCE（使用資本利益率）	6.1%	6.7%			6.7%
調整後ネットD/Eレシオ	1.15	1.01			1.01
為替レート	米ドル（円）	105.94			105
（期中平均レート）	ユーロ（円）	124.07			125



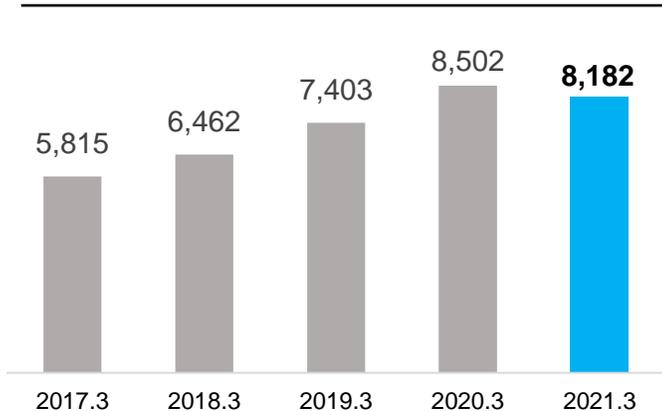
# セグメント別業績見通し

2022年3月期でセグメント区分の内訳組替えを実施したため、2021年3月期は新たなセグメント区分に基づき表示しています。

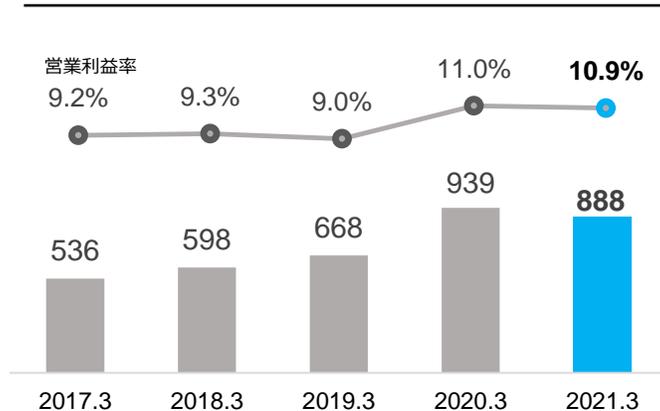
	2021年3月期 実績 通期	2022年3月期 見通し		前期比			2022年3月期 見通し
		通期 (維持)	構成比	増減額	増減率	為替影響	通期(旧)
(単位: 億円)		(11月1日発表)					(5月10日発表)
日本ガス事業	売上収益	3,419	<b>3,600</b>	41.6%	+181	+5.3%	<b>3,600</b>
	セグメント利益	298	<b>311</b>	32.4%	+13	+4.1%	311
	セグメント利益率	8.7%	8.6%				8.6%
米国ガス事業	売上収益	1,899	<b>1,980</b>	22.9%	+81	+4.2%	<b>1,980</b>
	セグメント利益	231	<b>236</b>	24.6%	+5	+2.0%	236
	セグメント利益率	12.2%	11.9%			-16	11.9%
欧州ガス事業	売上収益	1,600	<b>1,730</b>	20.0%	+130	+8.1%	<b>1,730</b>
	セグメント利益	210	<b>248</b>	25.8%	+38	+18.0%	248
	セグメント利益率	13.1%	14.3%			+1	14.3%
アジア・オセアニアガス事業	売上収益	1,020	<b>1,060</b>	12.3%	+40	+3.9%	<b>1,060</b>
	セグメント利益	89	<b>102</b>	10.6%	+13	+14.3%	102
	セグメント利益率	8.7%	9.6%				9.6%
サーモス	売上収益	239	<b>280</b>	3.2%	+41	+16.8%	<b>280</b>
	セグメント利益	51	<b>74</b>	7.7%	+23	+43.2%	74
	セグメント利益率	21.6%	26.4%				26.4%
調整額	売上収益	2	—	—	—	—	—
	セグメント利益	-8	-11	-1.1%	-3	—	-11
連結合計	売上収益	8,182	<b>8,650</b>	100.0%	+468	+5.7%	<b>8,650</b>
	セグメント利益	872	<b>960</b>	100.0%	+88	+10.0%	960
	コア営業利益率	10.7%	11.1%			-4	11.1%

# 過去5か年の業績推移

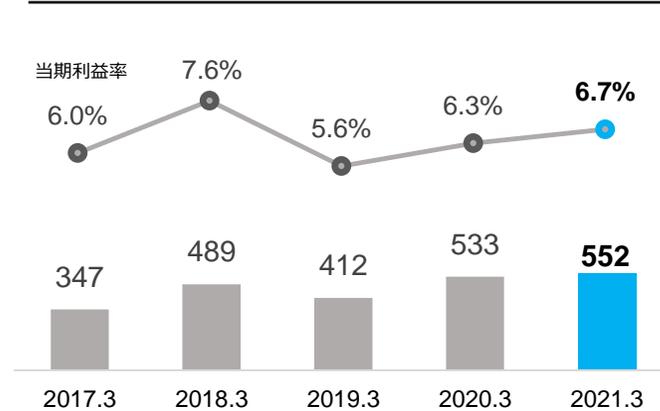
売上収益 (億円)



営業利益 (IFRS) (億円)

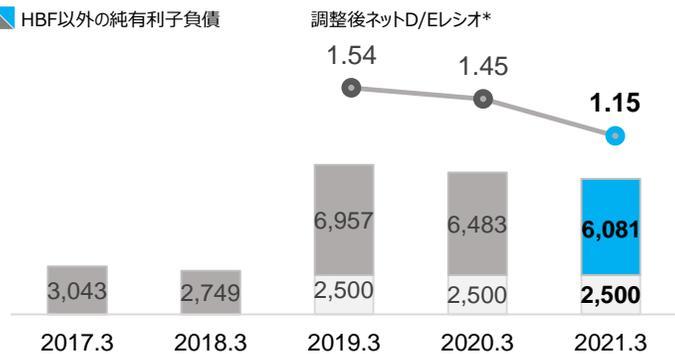


親会社の所有者に帰属する当期利益 (億円)

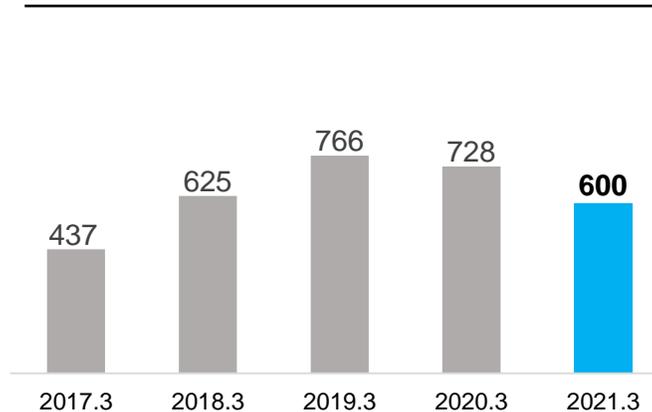


純有利子負債 (億円)

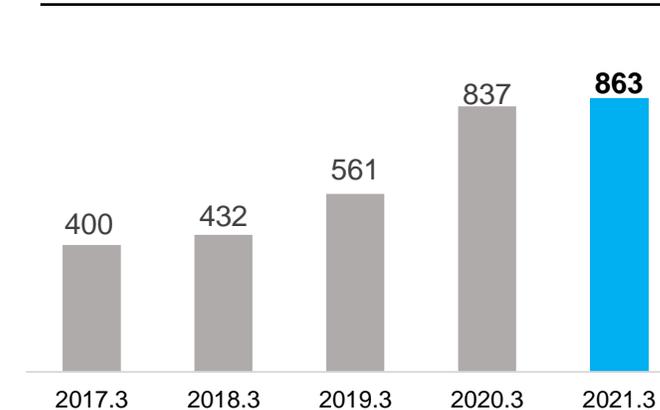
■ ハイブリッドファイナンス (HBF)  
■ HBF以外の純有利子負債



設備投資額 (億円)



減価償却額・償却費 (億円)



\*調整後ネットD/Eレシオ: 格付機関により、HBFで調達した金額の50%を「資本」として認められていますので、この部分を考慮して算出した安全性 (財務健全性) を示す指標です。

\*2019年3月期までは工事ベースでの計上、2020年3月期以降は資金ベースでの計上です。



# THERMOS

おいしい温度。サーモス

届けてきたのは、毎日のうれしい気持ち。

真夏の午後に飲むスポーツドリンク

しんと冷える朝に飲むコーヒー

仕事でひと息ついた時に食べる、温かいお弁当。

100年以上もの間、届けてきたのは「おいしいね」のすてきな笑顔。

これからもずっと一緒に。

さらに詳しい情報は、こちらまでお問い合わせください。

---

**投資家・株主の皆さま**

財務・経理室 IR部

Tel : 03-5788-8512

E-mail : [Nshd.ir@nipponsanso-hd.co.jp](mailto:Nshd.ir@nipponsanso-hd.co.jp)

**今後の投資家向け開催予定イベント**

2022年3月期 第3四半期決算発表

2022年 2月 2日 (水)

*[www.nipponsanso-hd.co.jp](http://www.nipponsanso-hd.co.jp)*

**日本酸素ホールディングス株式会社（証券コード：4091）**

本社所在地：〒142-0062 東京都品川区小山1-3-26



**NIPPON SANZO HOLDINGS**

**The Gas Professionals**

© 2021 NIPPON SANZO Holdings Corporation All rights reserved